

足助香嵐溪地区

(愛知県 豊田市)

- 計画期間 平成21年度～平成25年度
- 面積 540ha
- 交付対象事業費 838,200千円
- 市人口 422,305人(地区内人口1,713人)

ポイント 足助まちづくり推進協議会を中心に、住民主体のまちづくりを行政と共働で行うことで、「足助らしさ」を反映させるまち並みを形成。

県内初の重要伝統的建造物群保存地区に指定され、それを契機にシンポジウムを開催し、「足助まちづくり宣言」を採択。まちづくりに対する住民の意識が高まった。

地区概要 中馬街道(塩の道)の宿場町として栄え、江戸時代中期から明治末までに建てられた建物が数多く残る。

周年型観光地を目指し、各種イベントを企画するなど、住民活動が活発。

「香嵐溪」は紅葉の名所として全国的に有名である。

目標 テーマ：『自然と歴史を受け継ぎ、暮らしの香り漂う生活空間の創造』

目標1：歴史・文化・自然・景観を活かした、古くて新しいまちづくり

目標2：安全・安心で快適な、生活感ある暮らしを感じるまちづくり

目標3：観光・商業と連携した、活力ある共働まちづくり

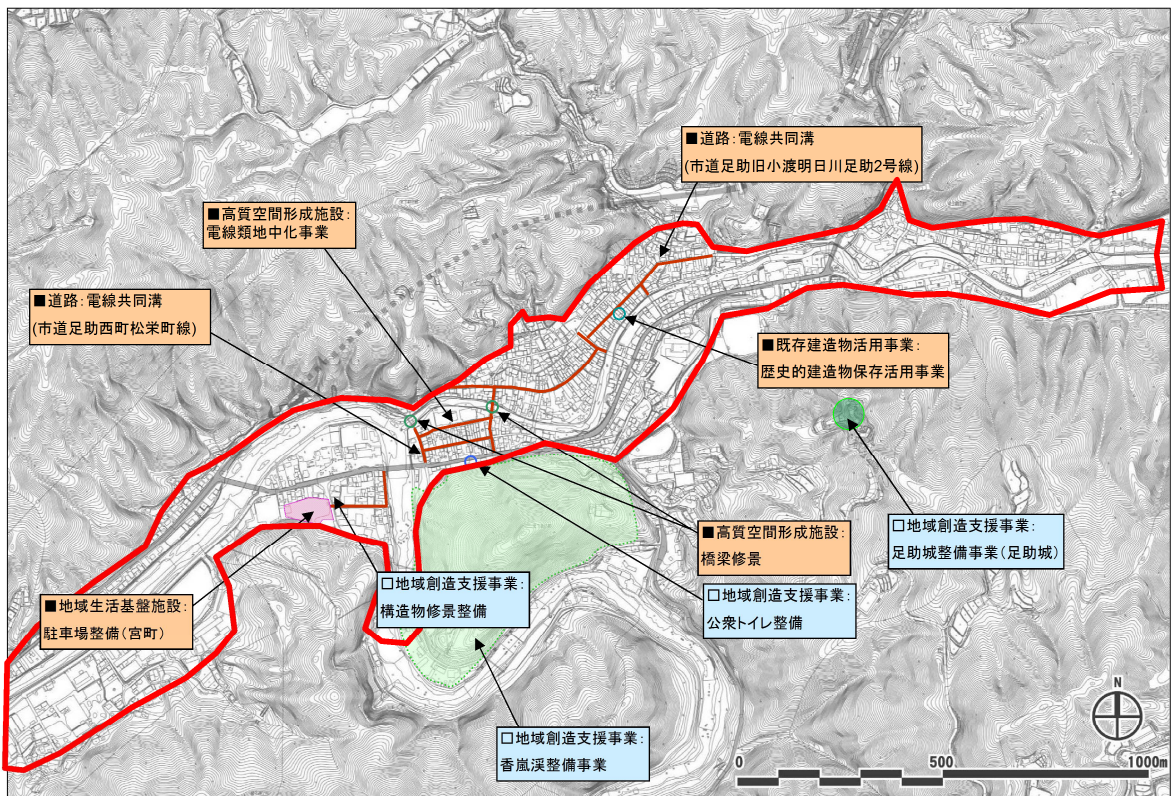
指標

指標	単位	定義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
1.街なみの満足度	%	地域住民に対する満足度調査(アンケートによる)	住民の満足度(「満足」と「やや満足」の割合)の増加を目指す。	37.2	(H18)	51.5	(H25)
2.旧足助町中心市街地内の歩行者数	人	休日の歩行者数(断面通行量調査による)	街並み空間整備、誘導手法により歩行者数の増加を目指す。 (足助郵便局前における観光シーズン中の9～17時両方向断面通行量合計)	970	(H19)	1,358	(H25)
3.歴史的町並みの観光客数	人/年	足助中馬館の入館数(歴史的町並み地区内)	減少傾向である歴史的町並みへの観光客数に歯止めをかけ、現状維持を目指す。	30,057	(H18)	30,057	(H25)

事業内容

基幹事業(706百万円) → 電線類地中化(L=1,790m)、道路修景整備(L=1,820m)、橋梁修景整備(2橋)、サイン整備(22箇所)等

提案事業(132百万円) → まちなみ整備事業(ファサード整備に要する住民への費用補助)、重要伝統的建造物群保存地区指調査、景観計画・ガイドラインの策定調査等



地区の現況と課題

足助地区は、愛知県の北東部の山間部に位置し、全国的に有名な紅葉の名勝「香嵐渓」と、『美しい日本の歴史的風土 100 選』に選ばれたまち並みを有する、都市近郊型の農山村です。しかし、隣接する景勝地「香嵐渓」の賑わいと反し、歴史的まち並みがある区域は、空き家や空き店舗が目立ち、かつて賑わいのあった街道沿いのまち並みが失われつつありました。

提案事業の特徴

まちなみ整備

足助のまち並み景観を向上させるため、ファサード整備に要する費用を補助

重要伝統的建造物群保存地区指定調査

旧街道に残る伝統的建造物を調査し、重要伝統的建造物群保存地区に指定できる範囲を検討・調査

景観計画・ガイドライン策定調査

足助独自の景観計画・ガイドラインを策定

まちづくりの効果、持続的取り組み

(相乗効果)ほとんどの事業が足助地区の中心部の生活環境とまち並みの整備という一つの方向に向けて組まれており、高い相乗効果を挙げられた。
(成果持続)5年間の整備から見えた成果・課題を踏まえ、「足助まちづくり推進協議会」を中心に、今後も行政と共働でまちづくりを進めていく。

豊田市長のコメント

足助香嵐渓地区における都市再計整備計画は、地域住民の声を反映させながら、市との「共働」により進めてまいりました。

豊田市では、山間部の過疎化や超少子化・高齢化が加速してまいりますが、都市と農山村が近接する豊富な地域資源や取組、営みの価値と多様性や可能性を実現し、すばらしい資源等を受け継ぎ、つないでいくことが、豊田市が将来にわたり「持続するまち」となっていくと思っています。豊田市で生まれるもの、生み出されるものを消費し、歴史・文化・芸術・スポーツなどを楽しむことを「WE LOVE とよた」の取組として、市民とともに進めてまいります。この取組は、次の世代に自信と誇りを持ってつなげていく「未来への投資」であり、今を生きる私たちの使命であると考えています。

当地区における都市再生整備計画は終了しましたが、引き続き、足助まちづくり推進協議会や地域住民、行政が「共働」して地区の様々な問題等を議論し、次のまちづくりへつなげていただけることを期待しております。

足助まちづくり推進協議会長のコメント

景観整備を行った他地区をみると、お金をかけて立派な整備を行ったものの、まち並みがキレイになっただけで、活気がなく寂しいまちがいくつもあります。まち並み整備(ハード整備)は、いったん終了しますが、「まちづくり」はこれで終わるわけではなく、永遠に続くものです。「まちづくり」は、足助に住む一人一人が一つになり、理想のまちについて話し合い、それを共有して、その目標にむけて持続的に活動することだと考えています。今後も、このまちに責任を持ち、住民の想いを反映させた、結びつきの強いまちづくりを継続していきます。足助のまちづくりが、豊田市の、もしくは日本のよい事例になるという、高い目標を掲げて行動していきたいと思います。



無電柱化されたまち並み



橋梁修景整備



住民が主体となった「サイン検討委員会」



都市再生整備計画事業 完成式